

## 馬場教授の 海外金型見て歩記



### 【コロナの衝撃編】

#### 第1回

## 新型コロナの衝撃1： コロナ禍で自動車市場への影響の大きかった世界、不思議に影響が小さかった中国

馬場敏幸 Toshiyuki Baba

東京大学大学院先端学際工学専攻修了。博士（学術）。東京大学先端科学技術研究センター勤務を経て、法政大学勤務。現在、法政大学・大学院経済学部教授。講義科目は現代アジア経済論、地域経済論、科学技術史など。趣味の1つとしてさまざまな国の金型企業を訪問。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響が世界中に広がっている。新型コロナ感染症は2019年12月12日、中国・武漢市で感染者が報告されてから、わずか数カ月で世界中に広まった。日本では早くも2020年1月に初の新型コロナ患者が報告された。武漢市に滞在した後、1月6日に日本に帰国した男性は、その後、国立感染症研究所の検査で新型コロナウイルス陽性が報告された。世界各国で1月中に新型コロナ感染が次々と報じられた。米疫病予防管理センターは1月21日、新型コロナ感染者が米国で確認されたと報告した。シンガポール保健省は1月23日、新型コロナ感染者を国内で初めて確認したと報告した。イギリス保健省は1月31日に新型コロナ感染者が国内で2名出たと発表した。2月になると発生地から遠方の国々でも感染者の報告が相次いだ。グローバル化による国際移動が盛んな今日、新型コロナウイルスはまたたく間に世界中に拡散・長期化し、「コロナ禍」と称されるようになった。

### 新型コロナ感染症発生直後の自動車業界への影響

新型コロナウイルス感染症拡大による自動車産業への影響は当初から懸念されていた。2020年1月の最初の新型コロナ感染症の報道からほどなく、1月24日の日経速報で早くも自動車関連株の下落が報じられた。「2019年1月24日のホンダ株は前日比で一時53円50銭（1.8%）安の2,953円50銭まで売られ、19年11月1日以来、およそ3カ月ぶりの安値に沈んだ。日産自動車も一時5円60銭（0.9%）安の616円を付け、11年9月以来、8年4カ月ぶりの水準に下落

した。（2020/01/24日経速報）。4月にゴールドマン・サックスは日本の自動車メーカーの営業収益予測を下方修正した。「トヨタ自動車、ホンダ、日産自動車など日本の完成車メーカー7社の経営を新型コロナウイルスが揺さぶっている。ゴールドマン・サックス証券は2020年4月13日、7社の21年3月期の業績予想を下方修正した。工場の稼働停止などで7社合計の営業利益は約2兆5,000億円と、3月上旬までに比べて4割減の水準だ。トヨタですら営業赤字に陥ったリーマン・ショック当時に比べれば『軽傷』との見立てが多いが、各社とも『CASE』投資の重荷を負って走っているさなかだけに、コロナとの消耗戦は競争力の格差を広げそうだ。（2020/04/27日経速報）」。

### コロナ禍による自動車市場への影響

具体的にコロナ禍により世界の自動車産業はどのような影響を受けたのだろうか。世界の自動車市場（新車販売）について2019年から2020年への変化について見てみたい。国際自動車工業連合会（OICA）統計に基づくと、2019年の世界の自動車販売台数は9,220万台であった。ところが2020年には7,770万台になった。コロナ禍により世界の自動車販売は1,450万台も減少した。率にして16%減少という大きなマイナス影響であった。日本の場合2019年の自動車販売は970万台であったが、2020年には810万台となった。160万台もの減少である。コロナ禍により世界と日本の自動車市場は大きなマイナス影響を受けたのである。その後2020年から2021年にかけては主要各国ともほぼ横ばいで推移している。

### 世界各地域および主要国へのコロナ禍の影響

表1に世界の自動車販売台数、減少数、変化率を計算し、まとめた。アジア・オセアニア地域が2019年の4,900万台から2020年の4,400万台、欧州地域が2,200万台から1,700万台、アメリカ地域が2,000万台から1,600万台、CIS地域が210万台から180万台、アフリカ地域が110万台から80万台であった。減少数・減少率に各地域でそれぞれ違いはあるものの、コロナ禍により、世界各地域の自動車販売数は大きく減少した。

表2に世界の自動車販売トップ10諸国について同様にまとめた。順位はコロナ禍前の2019年のものである。2019年に自動車販売台数が世界トップだったのは中国（2,580万台）である。中国の自動車販売は2020年には2,520万台に減少した。2位の米国（1,090万台）は880万台に減少した。3位は日本で前述のと